

今月のエキゾチック症例(第18回 2025年9月)

毛と皮脂腺が特徴ーモルモットの毛包腫ー

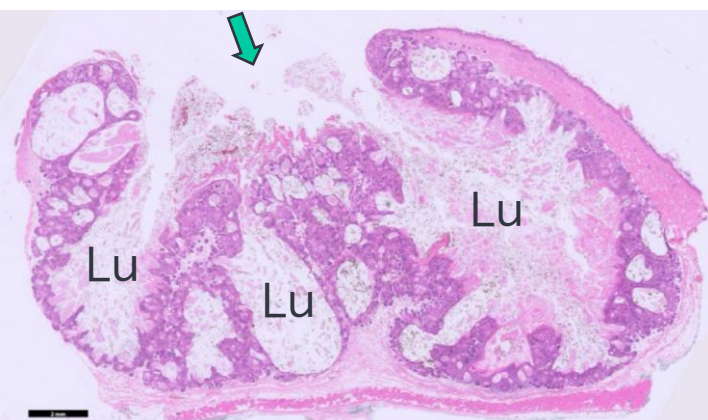


図 1. 組織写真、ルーペ像。真皮～皮下組織に形成された境界明瞭な嚢胞状の腫瘍で、表面に開口(矢印)しています。嚢胞は多房性で、内腔(Lu)には多量の角化物が充満しています。

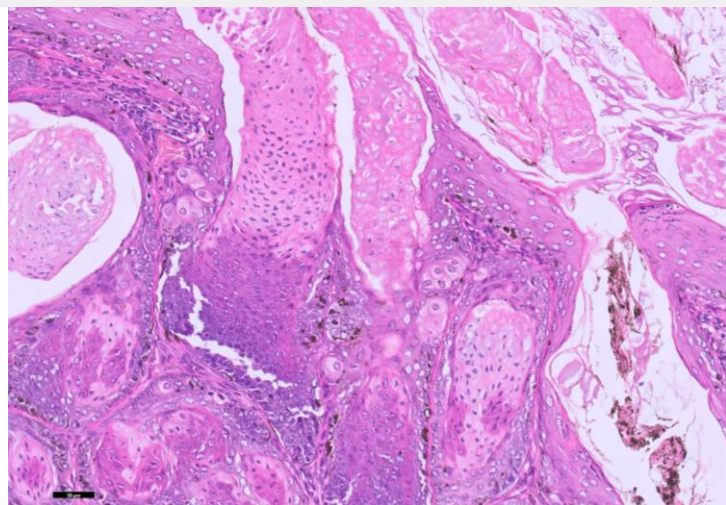


図 2. 組織写真、低倍像。様々な部位の毛包上皮への分化を示す腫瘍細胞は、角化物や陰影細胞などを容れる嚢胞を形成しながら多小葉状に増殖しています。

毛包腫は、皮膚の毛包腫瘍のうち、全毛包性の高度な分化を示す上皮性良性腫瘍で、毛包脂腺単位を含むことがあります。モルモットでは最もよく見られる皮膚上皮性腫瘍ですが、他の動物では稀です。モルモットでは雌雄差なく、どの年齢でも生じ、背部と腰部尾側に好発します。

組織学的には、漏斗部・峽部・下部の毛包のすべての部位への高度な分化が見られます。中心部には、毛包漏斗部に類似する角化重層扁平上皮で内張りされる一つまたは複数の嚢胞が存在し(図1)、嚢胞内には角化物と毛の断片が含まれます。嚢胞に連続して多数の一次毛包および二次毛包が見られます(図2)。一部の腫瘍では毛包に関連して正常な皮脂腺が存在します(図3)。

毛包腫は良性腫瘍なので、完全切除により治癒します。角化物や毛は起炎物質であるため、病変が破裂すると異物性炎症が起こるので、それによって肉眼的に急激な組織腫大を認めることがあります。可能であれば、大型化する前の切除が推奨されます。

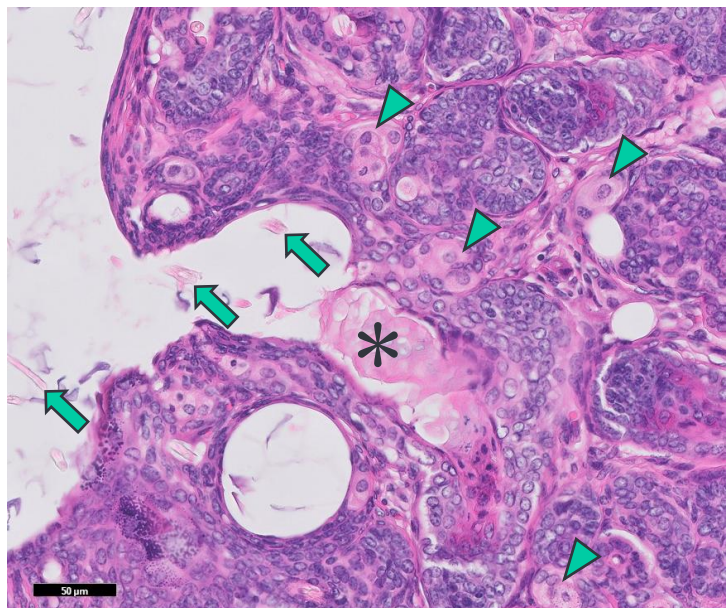


図 3. 組織写真、高倍像。密な多小葉状～多胞巣状に増殖する腫瘍細胞は、毛包の漏斗部や下部、毛母への分化を示しています。嚢胞内には角化物や陰影細胞(*)、毛の断片(矢印)が見られます。毛包に連続して皮脂腺(矢頭)を伴っています。

執筆者からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

ここ5年で私個人が遭遇した毛包腫の21症例中14例がモルモットでした。毛包腫といえばモルモットな印象でしたが、意外にも他のげっ歯類や犬猫でも時折遭遇していました。人の印象というのは曖昧ですね。ちなみに、毛包腫の鑑別には毛包上皮腫が挙げられますが、毛包腫では毛包の分化がより進んでいること、そして脂腺の存在から、区別されます。モルモットでは毛包上皮腫かと思っても、目を凝らすと大抵、脂腺がいます。

参考文献

1. Surgical Pathology of Tumors of Domestic Animals Vol. 1 Epithelial Tumors of the Skin. 2018. Davis-Thompson Foundation.
2. Pathology of Small Mammal Pets. 2018. Wiley-Blackwell.



執筆: 中嶋 朋美
DVM, PhD, DJCVP